

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400118		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームすも		
所在地	群馬県伊勢崎市太田町856-1		
自己評価作成日	平成26年2月19日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のかたの繋がりがあります。体操・ギター演奏・収穫祭の参加・クリスマス会の参加など交流しています。  
ホーム内に清潔間があります。毎日の食事がおいしい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成26年3月5日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが自分の思いや意向を伝えやすいよう、職員は環境づくりに努めている。日常的に地域のボランティアが来訪して、利用者と一緒に介護体操を行ったり、ギター演奏や歌を楽しんでいる。月2回、ホーム前の花壇の手入れに多数のボランティアが来訪して、利用者で交流を図っている。食事が楽しみなものになるよう家庭的な料理をつくり、味付けや盛り付けに気を配っている。利用者からは食事が美味しいとの声が聴かれた。気持ちよく暮らしてもらえるよう、清潔の保持にも力を入れている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に行動しています。迷った時は理念読み返し、基本にもどり実践しています。	管理者と職員は理念を共有しながら、職員会議等でケアの方向性を確認している。地域の人々との交流を大切に、利用者の健康と笑顔の絶えないホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	第3金曜日ボランティア3名の方に来ていただきまして、体操を楽しんでいます。また日曜日にギター奏でながらきみみなで歌を唄います。	月2回、花壇の手入れボランティアとの交流が図られている。毎月、3名のボランティアが来訪して利用者と一緒に介護体操をしている。地域の祭りに参加し、神輿が立ち寄ってくれる。公民館の作品展に出展し、見学に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月ごとに推進会議を開催しています。議題について話し合います。地域のかたの意見を参考に、認知症のかたの理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	推進会議の議題に外部評価の考評など話し合い、ホームの向上の参考にしている。	2ヶ月に1回開催されている。運営状況等の報告や防災訓練の説明、玄関の施錠等について意見交換を行っている。区長等から地域の情報を得ている。家族から会議に参加して良かったという意見をもらった。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本社担当者が日頃より出向き、報告・相談を密に取り協力体制を築いている。	ホームの実情を把握している法人担当者が、利用者の報告や申請代行・相談等で市の窓口へ出向き、担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所の入れ替わりもあり落ち着かないので今現在施錠しています。安定しましたら開放します。	入居して間もない利用者に帰宅願望や不穏状態の時があり、玄関は施錠している。本人が落ち着いたら開錠していこうと考えている。カンファレンスの中で、身体拘束に関する勉強会を行っている。	職員の連携で見守りの方法を徹底し、利用者一人ひとりのその日の気分や状態を捉えることで、鍵をかけないケアに取り組んでいってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で時どき虐待について議論しています。また見過ごされていないか注意をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今も成人後見人制度を利用しています。揉めることもなく、良い制度と理解します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は口頭にて、説明しています。利用契約書、重要事項説明書にもとずいて管理者が対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をよびかけ、ご家族の要望等に添える対応をしています。また、年に1回家族アンケートを実地している。	利用者の食べたい物や好きなこと等を聞き取っている。運営推進会議や来訪時、電話等で家族等の意見・要望を聞いている。年2回、家族面談を行い、年1回、法人が家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行いホームでの改善点や意見を出し合える様な取り組みをしている。また家族会を行い出された意見を参考に運営に反映している。	ホームでの改善点や利用者の対応、家族からの意見等について、月1回の職員会議で話し合いを行っている。出された意見や提案を運営に反映させている。年2回、本社課長・管理者との三者面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて各職員が向上心を持って働けるようバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を問わず、研修に参加できる機会を整えており共有できるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者の意見を交換する機会設けていないがサービスの向上させる為に社会資源は不可欠であると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配や不安を抱えて入所されるわけで、どのようにサポートして行けるかが、我々職員の役目であり、コミュニケーションや普段の何気ない会話から察していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望にはできるだけ応えられるように心がけている。家族会も定期的に行い話し合いの場を設けている。あまりホームに來られないご家族には電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	迅速な対応をし、他の機関との連携を行い、必要としている支援と一緒に考え提供に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家庭生活の延長であるので、生活を共にすることで教えて頂く事もたくさんあるので敬意を持って対応していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会や電話連絡を行い、ご家族様にも日々の出来事や、情報を共有してもらうことで絆を大切にしながら支援をしていく体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人にいつでも来て頂ける様な居心地のいいホームになる様に心掛けています。買い物に出かけたり散歩をしたりして外部との交流も図っている。	家族や友人等の来訪時には、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮をしている。職員と散歩や買い物に出かけたり、家族等と一緒に買物や外食、墓参り等へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならない様に、仲裁に立ち円滑に関わりが持てる様、間に入りコミュニケーションの手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況を聞いている。時々ギター演奏に来て頂き、皆さんと歌を楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けして本人の意向を察したり、昔の話から思いを聞きとる様になっている。困難な場合はご家族から情報を得て参考にしている。	言葉を掛けて、本人の思いや意向等を汲み取るようにして、個別の対応を目指している。困難な場合には、家族等から情報を得て、本人本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方一人一人の今までの生活や、経験をたくさん聞きサービス提供を行っている。その方の多くを知ることで良いサービスが出来ると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見られる様にしていたり、細かな事でもケア記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が利用者の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見られる様にしていたり、細かな事でもケア記録に残している。	本人・家族等から思いや意向を聞き、ケアカンファレンス等で話し合い、意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。毎月のモニタリングを基に、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	声掛けして本人の意向を察したり、昔の話から思いを聞きとる様になっている。困難な場合はご家族から情報を得て参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時は、事務所の電話を利用し、電話をかけた取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には、利用者様と共に参加し、ホーム内では、ボランティア体操等を定期的に行い、地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、かかりつけ医の往診がある。受診・通院はご家族対応だが、都合でどうしても行けない場合はホームで対応している。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診・通院が出来ない場合には、職員が代行して結果を報告している。月2回、協力医の往診がある。希望に応じて歯科医の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看が来苑し、いつでも連絡が取れる様になっている。毎日バイタルチェックを行ない、体調不良や普段と様子が違う方がいたら、記録に残し、職員協力し合い連絡・相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される際は、その方の状態や情報を入院先の病院へ細かく伝えている。又、時々見舞いに行き、変化や状態を見る様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携している医師より終末期などのお話があり次第、早い段階でご家族様との話し合いを設け、ご家族様の意見に沿って支援させて頂いております。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明して家族等の同意を得ている。年1回、運営推進会議で説明をしている。主治医が終末期の判断をした場合、家族等と話し合い、家族等の意向に沿った支援を行っている。家族等の協力を得ながら看取りを行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講して、緊急時の手当の仕方など学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一日に非難訓練・防災訓練を行っており、一年に一度消防本部やご近所の方々の協力を得て夜間想定の大規模訓練も行っております。	毎月、避難誘導の自主訓練を実施している。年1回、消防署立会いで夜間想定の大規模訓練(消火・通報・避難誘導)を実施し、地域住民も参加している。他に、部分訓練(通報・避難誘導)を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の年長者と尊敬し、人間性を大切に、言葉使いにも注意を払っている。居室では、自分のプライバシーを守り、自分のペースで生活が出来る様、居室へ入る際はノック・声掛けを行なっている。	個々の尊厳を大切に、言葉遣いにも注意を払っている。大きな声を出さずに、傍でゆっくり話をするよう心がけている。居室へ入る際には、ノックや言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望があれば、計画を立てて、無理のない方で外出出来る様に対応する。お買い物などは希望された品を購入して来たり、体調・天候を考慮し、一緒に同行して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や、お天気等を考慮しながら意志を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室をお願いし、好きなヘア・カット・カラー・パーマを選択し、楽しんでます。又、職員の方でお化粧してさしあげたり、ネイル等、美を感じて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも楽しんで頂ける様に、ワンプレートを利用したり、色合いや盛り付けなどにも気を配る。片付けも体調を考慮し、1つのコミュニケーションの場として会話を楽しみながらお手伝いをして頂いている。	利用者は盛り付け・テーブル拭き・後片付け等を職員と一緒にやっている。職員はさりげなく介助をしながら、一緒に会話を楽しみ食事をしている。利用者からは、家庭的な料理で美味しいとの声が聴かれた。外食ツアーに出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の献立ではメニューがかぶらない様にしています。嗜好や食事量・体調にあった献立にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行なっています。出来ない所は介助して、清潔を保つ様にしています。虫歯・義歯の不具合の時は訪問歯科に診て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のペースに合わせて排泄が出来るようにしています。必要な方はパットをトイレの入り口に設置しています。また、実施記録を用いながら羞恥心に配慮して声かけを行っています。	一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮をして言葉かけやトイレ誘導を行っている。失禁の多い人には、誘導の回数を増やして失禁を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操とヤクルトの提供を行って、便秘の予防に努めています。いつも薬を使用しない様に努めていますが、必要な時は、看護師に報告して使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に入浴の意思を聞き、その時の体調等に合わせて入浴して頂いています。また、入浴剤を入れたりして、匂いや雰囲気を楽しめるようにしています。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっている。本人に入浴の希望を聞き、温めのお湯で入浴剤を使用し、楽しんでもらっている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や要望に合わせて、空調設備を利用したりして、快適に過ごせる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を飲み込んだところまで見守り確認しています。また、誤飲の無いように職員が管理しています。処方箋もすぐ、確認出来るようにファイルされています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の経歴から、歌や体操、裁縫等活かせるようにお手伝い等をお願いしたりボランティアの方にも来て頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会社全体で旅行を実施したり、利用者様の要望を聞き、天気の良い日にはベランダに出たり、季節によっては、花を見に外出しています。	天気の良い日には、ベランダでの日光浴や周辺への散歩に出かけている。利用者の要望に沿って、買物、ドライブ・季節毎の花見・外食・地域の行事等へ出かけている。法人主催の食事会やバス旅行には、家族等と一緒に参加をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の気持ちを理解して、ご家族様の了解のもと、ご自分で小額のお金を所持され必要に応じて使用する方もいらっしゃると思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、相手の方や時間にも配慮して事務所の電話を利用して、連絡が取れるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも快適に過ごせるように清潔を保っています。また、季節に合わせた花を飾って居心地良く過ごせて、利用者様が自然と集まれるようにしています。	ホールは開放感があり、清潔が保持されている。手作りの作品や押し絵等、季節感を採り入れた装飾がなされている。畳の間には休養できるよう布団の用意をしている。花の鉢が置かれ、利用者が手入れをしている。畑で野菜づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて、気の合った方同士やその他、誰もが好きな時に座れて過ごせる場所や、自席を設け自分の場所だと安心して過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族と相談して、落ち着いて過ごせるように馴染みの家具を使用できるようにしています。	居室には、筆筒・衣装掛け・ソファ・鏡・チェスト・家族の写真・手作りの作品等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく見やすいように表示をして、出来る事は、利用者様に行って頂き、無理のないようにしています。		